

新世代ネットワークの標準化について

平成23年5月31日

大阪大学 サイバーメディアセンター 応用情報システム研究部門・教授
(独)情報通信研究機構 テストベッド研究開発推進センター長

下條 真司

標準化は今から、今こそ

- ITU-T SG13で標準化がスタート。将来網全体の技術要件に関しては我が国も協力し、Y.3001として、2011年5月会合で勧告化。ネットワーク仮想化、ネットワークの低消費電力化、識別子の技術概要について標準化中。
- IRTFでは、南カルフォルニア大学、NECヨーロッパ等が、ネットワーク仮想化に関して議論中 (VNRG)
- ETSIではAutonomic network engineering for the selfmanaging Future InternetをISGで標準化準備中。同様の技術領域がITU-T SG13 Q.21での標準化が提案されている。
- Openflowに関してはスタンフォード大学を中心とし、その技術の推進・発展を目的とする団体として、「Open Networking Foundation」があり、グーグル・マイクロソフト・IBM・DELL・Deutsche Telekom・NEC・NTT等が参加している。

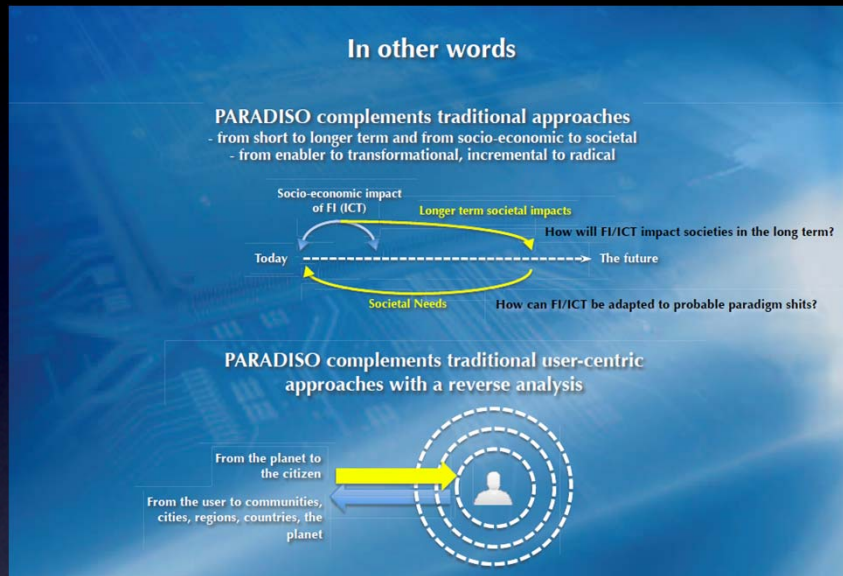
現状は枠組みを決めている段階であるが、この枠組み作りに参加して、場所をとっておくことはきわめて重要であり、適切なタイミングで案件を入れていく必要がある。

国として担保しておくこと

- 市場創造に向けた多様なステークホルダー間のビジョンを示す
- 先端的技術を維持し、暖めておくこと
- オープンな市民とのアセスメントの場
- 中長期戦略を持ちながら、適切に評価しつつ、フォローをしていくこと

中立的な機関としてフォーラム、国研、大学を活用

ビジョンとアセスメント



2-4 新世代ネットワークビジョン



> 次世代ネットワークのさらに先を見据え、様々な社会問題や課題を情報通信技術の力で解決することにより、豊かな地球文明を持続可能とする。
 > 個人や社会の潜在能力を開花させることにより、豊かで質の高い生活を実現する。
 > 多様性を許容することにより、人類社会を永続的に発展させる情報通信の基盤となることを目指す。

新しい価値観の創造 (Maximize the Potential)
 人や社会の潜在能力を開花させ生活の質や生産性を向上させる新たな価値を創造するため、個人の知識、地域コミュニティのパワー、組織や社会に潜在している暗黙知などの広い意味での世界の潜在能力を開花させていくことを目指す。

地球文明の新しい形での発展 (Inclusion)
 文化的地理的な多様性や個人の多様性を許容して共生する地球文明の新しい形での発展のために、これらの多様性を尊重し協調を促進する新しい社会システムの構築を担うことを目指す。

顕在化する社会問題に挑戦 (Minimize the Negatives)
 エネルギー問題、格差問題、少子高齢化、自然災害など、地球規模で差し迫ってきた社会的な課題を明確に意識し、その解決に対して寄与することを目指す。

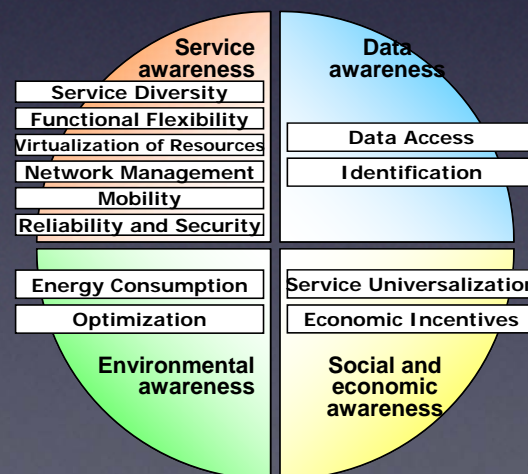


新世代ネットワーク研究開発戦略本部

<http://nwg.nict.go.jp/vision.html>

Paradiso in EU/FP7

http://paradiso-fp7.eu/files/2011/05/PARADISO_reference_document_May2011.pdf



NICT

Y.3001 (ITU標準)

新世代ネットワークのロードマップ

